教材のねらい

1 選定の理由

漢詩になじむための導入として、季節を背景にし、古くから愛誦されてきた絶句四首「春暁」（孟浩然）「江南春」（杜牧）「秋風引」（劉禹錫）「江雪」（柳宗元）を前半に置いた。後半の四首は、「送二元二使一安西一」（王維）と「勧酒」（于武陵）はともに送別の場で作られた詩でありながら、「渭城」「陽関」を読み込む前者と、そうした固有名をいっさい排した後者との違いが鮮明であり、「涼州詞」（王翰）と「静夜思」（李白）もまた、故郷を離れた者の心情をうたう点で共通しつつ、描かれる情景は対照的であり、漢詩の表現の幅を学ぶのに適した組み合わせである。

律詩では、「春望」（杜甫）と「八月十五日夜、禁中独直、対レ月憶二元九一」（白居易）によって、五言と七言それぞれの律詩ならではの構成とそれぞれの詩人の境遇に即してその心情をていねいに読解することを目指した。後者については、「名月――八月の詩」（一海知義）を「古典に関する文章」として用意し、日本文学とのかかわりについても学べる教材とした。

日本漢詩はいずれも絶句だが、「富士山」（石川丈山）は五言で日本の自然物、「鳥児塞宮」（成島柳北）は七言で西洋の建築物を主題とするように、ここでも対比がしやすいように配慮した。

文章は、古文として「雑説」（韓愈）、駢文として「春夜宴二桃李園一序」（李白）を採用した。前者は理知的な構成でありながら心情は激烈であり、後者は駢文という形式を守りながら心情は自由である。また、後者は古文の単元の「おくのほそ道」との比較を行なうことによって、日本文学との連関と相違についても学ぶことができる。

2 指導のねらい

いずれも名篇であり、暗誦にも向いている。繰り返して音読し、詩や文章の語彙やリズムになじんだ上で、表現の特徴へと理解を進める。また、季節の風物への敏感さ、友への思い、不条理な世への憤激、限られた命への愛惜など、漢詩文が普遍的なテーマを扱ってきたことに気づかせることも重要である。詩形・押韻等の基礎知識は折りに触れて整理して示し、正確に把握させるようにしたい。

3 単元の目標

目標について、別表「単元の目標一覧」をご確認ください。

4　評価規準

学習指導要領との対応等	評価規準例	〔知識・技能〕	(1)ア 言葉には、文化の継承、発展、創造を支える働きがあることを理解している。	(1)イ 常用漢字の読みに慣れ、主な常用漢字を書き、文や文章の中で使っている。	(1)ウ 我が国の言語文化に特徴的な語句の量を増し、それらの文化的背景について理解を深め、語感を磨き語彙を豊かにしている。	(1)エ 文章の意味は、文脈の中で形成されることを理解している。
春暁・江南春・秋風引・江雪（漢詩の手引き）				○	○	
送元二使安西・勧酒・涼州詞・静夜思（漢詩の手引き）						
春望・八月十五日夜…（漢詩の手引き）					○	
富士山・鳥児塞宮（漢詩の手引き）			○		○	
雑説					○	
春夜宴桃李園序					○	○
名月 ── 八月の詩						
単元の言語活動４			○			

⑵ア	我が国の言語文化の特質や我が国の文化と外国の文化との関係について理解している。								○
⑵イ	古典の世界に親しむために、作品や文章の歴史的・文化的背景などを理解している。	○	○	○	○	○	○		○
⑵ウ	古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解している。	○	○	○	○	○	○		○
⑵エ	時間の経過による言葉の変化について理解を深め、古典の言葉と現代の言葉とのつながりについて理解している。	○	○	○	○	○	○		○
〔思考・判断・表現〕									
B⑴ア	「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えている	○		○	○	○	○		○
B⑴イ	「読むこと」において、作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈している。	○	○	○	○	○	○		○
B⑴ウ	「読むこと」において、文章の構成や展開、表現の仕方、表現の特色について評価している。		○	○	○	○	○		○
B⑴エ	「読むこと」において、作品や文章の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深めている			○	○	○	○		○
B⑴オ	「読むこと」において、作品の内容や解釈を踏まえ、自分のものの見方、感じ方、考え方を深め、我が国の言語文化について自分の考えをもっている。	○				○	○		○
〔主体的に学習に取り組む態度〕									
	進んで漢詩のきまりと表現の特色について学び、漢詩の世界に親しみ、描かれた状況や心情を考えながら、それぞれの漢詩を読み味わい、学習課題に沿って、季節と心情の関係について、それぞれの詩を比較し、話し合おうとしている。	○							
	進んで漢詩のきまりと表現の特色について学び、漢詩の世界に親しみ、描かれた状況や心情を考えながら、それぞれの漢詩を読み味わい、学習課題に沿って、それぞれの詩の舞台や誰に呼びかけているかを比較し、どのような違いがあるか、話し合おうとしている。		○						
	進んで漢詩のきまりと表現の特色について学び、漢詩の世界に親しみ、描かれた状況や心情を考えながら、それぞれの漢詩を読み味わい、学習課題に沿って、杜甫と白居易の当時の境遇と時代背景を調べ、二つの詩を比								○

較して、その違いがどのように表れているか、発表しようとしている。								
進んで日本漢詩を読み、我が国の文化と外国の文化との関係について理解し、描かれた状況や心情を考えながら、それぞれの漢詩を読み味わい、学習課題に沿って、富士山やヴェルサイユ宮殿を漢詩の題材とすることの効果について話し合い、発表しようとしている。					○			
進んで漢文の簡潔で整然とした表現と構成に注意しながら「雑説」を読み味わい、学習課題に沿って、描かれた状況や心情を考えながら、筆者の主張について話し合おうとしている。				○				
進んで漢文の簡潔で整然とした表現と構成に注意しながら「春夜宴桃李園序」を読み味わい、学習課題に沿って、描かれた状況や心情を考えながら、松尾芭蕉『おくのほそ道』の冒頭部分と比較して、気づいたことを発表しようとしている。			○					
進んで漢詩文の表現の特色について学び、漢詩文に親しみ、月に関する文学作品を調べ、学習課題に沿って、漢詩（漢文）と和歌（古文）における、月の描かれ方や作品の背景について、共通点と相違点を考えようとしている。		○						
進んで漢詩文の表現の特色についてまとめ、今までの学習を生かして、漢詩文の日本語・日本文学への影響を考察しようとしている。	○							

■言語活動例との関連（【　】は関連する指導要領の言語活動例）

春暁・江南春・秋風引・江雪（漢詩の手引き）：季節と心情の関係について、それぞれの詩を比較し、話し合う。【〔思・表・判〕B⑵イ】

送元二使安西・勧酒・涼州詞・静夜思（漢詩の手引き）：それぞれの詩の舞台や誰に呼びかけているかを比較し、どのような違いがあるか、話し合う。【〔思・表・判〕B⑵イ】

春望・八月十五日夜…（漢詩の手引き）：杜甫と白居易の当時の境遇と時代背景を調べ、二つの詩を比較して、その違いがどのように表れているか、発表する。【〔思・表・判〕B⑵イ】

富士山・鳥児塞宮（漢詩の手引き）：富士山やヴェルサイユ宮殿を漢詩の題材とすることの効果について話し合い、発表する。【〔思・表・判〕B⑵イ】

雑説：筆者の主張について話し合う。【〔思・表・判〕B⑵イ】

春夜宴桃李園序：松尾芭蕉『おくのほそ道』の冒頭部分と比較して、気づいたことを発表する。【〔思・表・判〕B⑵ウ】

単元の言語活動４「漢詩漢文の表現の特徴をつかむ」：漢詩文の日本語・日本文学への影響を考察する。【〔思・表・判〕B⑵ア】